

中部 NGO おうえん募金×ハートリレーキャンペーン

シーテック クリック募金 2017 報告書

クリック募金開設期間:2017年6月1日~2018年1月31日

クリック募金は期間内に2万クリックを達成しました。皆さまのご協力に感謝申し上げます。ご寄付は以下の5団体に配分し各活動に使わせて頂きました。2017年度に実施した活動をここにご報告致します。

(特活) 地域国際活動研究センター(CDIC・シーディック)

東ティモール民主共和国リキサ県バザルテテ郡マウメタ村にて、現地 NGO (organizasaun Mankledo オルガニザサウン マンクレイド) をカウンターパートとしています。マウメタ村村民と連携して村の共有地にある水源にて植林活動をしています。植林するための苗木を育てるナーサリー(圃場)の整備・運営や現地の村人を雇用して植林活動をしており、村人が植林をする共有地の維持管理システムができています。一昨年までは専門家による苗木研修も行い、水源林の復活が目に見えてきました。これにより、植林による村人の環境保全への意識も垣間見られるように

なりました。

今年度は JICA からの支援が終わり、現地 NGO としては UNDP の支援を受けています。ACME 地区で花壇をつくって周りの人の環境意識を育てる活動に取り組みました。



支援地での花壇の作成

ニカラグアの会

今年度は、国内での事業を主に行ってきました。素朴画展示会&映画上映会に力を注ぎました。そのため、現地には、今年度は誰も行くことができず、その代わりに、「トビタテ留学」という制度を利用した大学生が現地へ向かい、学びながらいろんな活動に参加してくれています。

写真1は、私たちが支援している学校(夜間女性成人学校)の1コマです。このように夜間、自分たちの仕事を終えてから学びに来ています。写真2は、継続して行ってい

る手作りソーラーパネルの製作風景です。



写真1

このようにセルをはんだ付けし、その後ラミネートをかけ作っていきます。このパネルは、40Wの若干小型の物です。はんだ付けしているのは、制作の中心人物です。この学校にも手作りソーラーパネルが取り付けられ、夜間はその効力を発揮していますし、パネル数枚は、非電化地域にある家にも取り付けられていて、夜も電気が使えると、感謝されています。以前いただいた、ソーラー発電キットも活躍しています。政府も、再生可能エネルギー普及を進めています。ど

の程度まで理解・普及を浸透させるかが今後の事業の課題になってきます。



写真2

南遊の会

2017年8月18日～28日の11日間、ホーチミン市郊外のカンザー地区でマングローブ再造林事業に参加するスタディツアーを実施しました。日本から学生25名、社会人11名（含むスタッフ）、ベトナムから学生22名、教員1名が参加し、寝食を共にして、再造林地でのニッパヤシの下刈り作業と放棄塩田での試験植林を行いました。

「日越青少年交流の森」と名付けられた再造林地では植林苗は順調に成長を続け、2003年植林地の最大樹高は12m程に達していました。しかし、相変わらずニッパの成長は旺盛で、もうしばらくは下刈り作業

が必要な場所もあるようです。

2010年から開始した放棄塩田での試験植林では、当初は高地盤高を好むヒルギモドキとコヒルギを植えていました。しかし、これらは成長が思わしくないため、昨年にはパイオニア樹種であるマヤプシキ、ヒルギダマシ、ウラジロヒルギダマシの植栽を始め、今年もこれら3種の植林作業を行いました。このうちヒルギダマシの残存率が最も高いことが確認されました。今後も成長モニタリング調査を継続することで、放棄塩田での最適植林樹種を選定していく予定です。



ニッパヤシの下刈り作業



放棄塩田での植林作業

(認定特活) アイキャン

フィリピン全土で約 25 万人に及ぶ路上生活をする子どもたち。空腹や病気等に苦しみ、事故や犯罪に巻き込まれる危険に常にさらされています。そして、そのほとんどは毎日学校に行くのではなく、危険あふれる路上に行き、働くことでわずかな小銭を稼ぎながら命をつないでいます。

路上の子どもたちは、環境について考えたり、環境保全について学んだりする機会がほとんどありません。そこで、アイキャンでは、このような子どもたちに対し下記 3 つのことを実施しました。

1、 環境教育の実施

学校に通っておらず、文字の読み書きの苦手な子どもたちでも楽しみながら学ぶことができるように、カラフルな絵で描かれた教材を使用し、ごみのポイ捨て、リサイクル、電気や水の節約等、様々なテーマで環境教育を行いました。

2、 植栽活動の実施

子どもたちが体感的に環境の大切さを理解するために、野菜や花の植栽活動をし

ました。また、直接土や植物に触れることで、過酷な路上生活で傷ついた子どもたちの心に癒しを提供することができました。

3、 路上清掃活動の実施

「環境のためにできること」として、子どもたちが路上で掃き掃除や、ごみ拾いなど、地域の清掃活動を継続的に行いました。

■活動に参加した子どもの声■

「家の中や身の回りをきれいに保つこと、ゴミをポイ捨てしないことで、病気になりにくくなることが分かりました。(男の子 10 歳)」



恒例となったごみ拾い活動

(特活) イカオ・アコ

イカオ・アコは、フィリピンボホール島、ネグロス島でマングローブの植林、有機農業の振興、環境教育、3Rの啓発、エコツーリズム、フェアトレードなど環境関連の事業を行うNGOです。

かつて、対象地域のネグロス島の臨海部はマングローブ林が豊かな土地でした。1950年代には13,000haありましたが、一時500haまで減少しました。材木の利用、農地開墾、養殖池への転換などにより、マングローブ林の伐採が継続的に行われて

きました。感潮地帯に生育するマングローブ林は、水生動物の産卵場所、小魚や甲殻類の生息地として重要であり、マングローブ林の減少は近海漁業の不振のひとつの原因となっています。

御社のシーテッククリック募金により、いただいた浄財は34,000円となりました。おかげさまで680本のマングローブの苗をマナプラにて植林しました。苗代や運搬費などで1本当たり50円のコストがかかります。

本募金で植林したマングローブは、約0.1ヘクタール分にあたります。今後、地元団体のメンバーの手により、継続してメンテナンス活動を行っていくことで、造林が完了することを目指します。



皆様一人ひとりのクリックが募金につながったことに感謝し、途上国の環境保全活動を継続していきます。今後とも応援をよろしく願います。



シーテッククリック募金とは？

シーテッククリック募金WEBサイト (<http://www.ctechcorp.co.jp/bokin2017/>) より期間中に「応援します」をクリックして頂きます。1クリック=10円としてクリック数に応じて(株)シーテックが、(特活)名古屋NGOセンターが運営する「中部NGO おうえん募金」の『環境』分野にエントリーするNGO団体(5団体)へ寄付します。上限金額は20万円です。

ご寄付20万円の配分について(2018年3月31日)

・(特活) 地域国際活動研究センター	34,000円
・ニカラグアの会	// 円
・南遊の会	// 円
・(認定特活) アイキャン	// 円
・(特活) イカオ・アコ	// 円

(順不同)

※事務手数料として寄付金額の15%(3万円)を頂戴しました。

特定非営利活動法人名古屋NGOセンター

〒460-0004 愛知県名古屋市中区新栄町2-3 YWCAビル7F

TEL&FAX 052-228-8109 E-Mail: info@nangoc.org